

校長室から応援メッセージ(7)

令和7年12月11日(木)

「共通テストまであと〇〇日」の過ごし方

皆さん、こんにちは。12月に入り、一段と寒さが厳しくなりました。本格的な冬と入試シーズンが手を携えてやってきた感じがします。寒さと緊張に押し倒されないように、両足を踏ん張って立ち続けてください。しかし、決して立ち尽くさないようにお願いします。

さて、倫理の授業ではありませんが、哲学者西田幾多郎は、「純粹経験」というものを真の实在として自らの哲学を構築しました。「純粹経験」とは、思慮分別を加えない経験そのままの状態、知識とその対象とが全く合一した状態であるとしています。

たとえば走り幅跳びでは、踏み切った直後の空中を突き進む勢いに醍醐味があるはずなのに、記録を知らされると、その記録を伸ばすことに意識が行ってしまいます。これでは純粹経験とはいえない、と思います。

勉強においては、無心で机に向かい、今知ったこと、今度はできるようになったことを純粹に喜ぶ、これが「純粹経験」です。成果が見えず焦ったり、受験当日を想像して胸をドキドキさせたり、受験勉強が「純粹経験」となるのは難しいとは思いますが、たとえ困難でも、皆さんにはその努力を貫いてほしいものです。

本日授業が終わります。最後の追い込みにおいては、「あそこまで」というゴールを意識するよりも、「今ここから」というスタートを意識するようにしましょう。冬期講習会は授業の延長で、普段と同じく出席し、そして授業後に復習するなかで、それと同時にその範囲を少しだけ広げておく。オーソドックスなこの形が、本番に直結する、最も効果的で、最も効率的な勉強であるはずだ、と思います。

人生にゴールはありません。その時々スタートがあるだけです。「あそこまで」行けば幸せが…とゴールばかりを考える人生では、一日の充実、日々持続することの豊かさに気づけません。人生は、いつでもどこでも「今ここから」なのです。

ゴール間近の私は、「今ここ」を生きるしかありませんが、皆さんは、まさに「今ここから」です。皆さんの健闘を祈ります。